

～ Serving the **Community** and Supporting the **YMCA** since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

今月の国際テーマ： **Christian Emphasis** (キリストに倣う)

2022年
12月



今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



「あっぱれ！」

先月3日、第23回埼玉YMCA国際チャリティラン（所沢航空記念公園）に我がクラブのスポンサーで浦和Yの若者チームが堂々3位でゴール！彼らの張り切りとチームワーク、スタッフの後押しでやってくれた。お見事！感謝！

12月ブリテンの主な内容

- ・ クリスマス特別例会（12/17）報告
- ・ 夜談会の
- ・ 市民活動「ほっとプラス」
- ・ ワイズ・エッセー
- ・ 世界YMCAの“Ignite 2030”計画
- ・ 浦和YMCAの小窓から

「クリスマス特別例会」 スケッチ



12月例会を第3土曜日午後2時開会の「クリスマス特別例会」にした。久しぶりに現役・年金メンバーが勢ぞろいした。「き咲きてらす」を会場に歌声

てらすの常連・支援者・市民活動家・メンバーの家族のほか、世田谷クラブの元メンバー張替氏のギタートリオ「ロス・コンパニェロス」が遠方から応援でやって来た。衣笠メンのリードでクリスマス・キャロルを歌い、堀和メンと浅羽メンがテナーとピアノのデュオで「トナカイさん」を演奏。参加者がそれぞれ思い出話を共有。上松メンは数日前に召



天された関田寛雄牧師の逸話。次いでギタートリオのメキシコ民謡を堪能し「シェリト・リンド」では皆で「ア〜イ・ア〜イ・ア〜イ」とコーラスを斉唱。

ウクライナ戦争や各地の人道危機に苦しんでいる人々や国を離れて現地で彼らを支援し続けている国際NGO職員のことも覚えつつ、今年のクリスマスと共に祝いましょう、との会長の閉会挨拶で例会は和やか雰囲気うちに終了した。(浅羽 記) ❖



[ゲスト・ビジター] 藤井一誠・藤井英美、平山初子、尾熊愛子、若林祥文、羽田真納美、張替滋夫、澤西信夫、橋下吉彦、浅羽慶太郎・愛子・悠花、大輪匡史、山本剛史郎、浅羽 恵

[メンバー] 浅羽、伊藤、上松、衣笠、堀和、三浦、水無瀬

12月夜談会

12日の夜談会をさいたま新都心駅西口の「青蓮」で開催。今回は衣笠、伊藤、上松、堀和、三浦、浅羽とゲストは11月に続いて大輪、斎藤が参加。開会早々学Y支援についてのやりとり。浅羽退席後は11月に続いて斎藤氏の障害者スポーツの話で大いに盛り上がった。

月例会のフォーマルさを抜きにした夜談会は参加者が誰でも気楽に歓談や議論を楽しむ場になっている。メンバー同士互いの意外な一面を知ること

になり、ワイズを知らない参加者もその場の雰囲気に乗せられて帰る頃は皆と和気藹々。小さなクラブならではの事かもしれない。(浅羽 記) ❖

さいたま市の市民活動を知ろう (8)

特定非営利法人 「ほっとプラス」

浅羽俊一郎

今回は市民団体紹介というよりはある偶然の出会いの話である。

先月27日東京YMCA山手センター(西早稲田)で設立70周年イベントで野外活動リーダーのOG・OBと現役が120余名集まった。そのこと自体凄いことだったが、話し合い、キャンプソングを歌い、交流を楽しむ中で、私はある出会いを体験した。それはパネルディスカッションに登壇したOB平田真基氏が「今大宮で埼玉YMCAとつながっている」と発言したのを聞いた時だった。会場後方のざわつく中で聞き逃したかもしれない短い発言だった。

早速挨拶を交わした。大宮を中心に貧困家庭や独居老人を支援しており、小谷埼玉Y総主事が個人的に手伝っているとのこと。翌28日電話して、私が参加している市民田んぼの今季収穫のうち私の取り分から40キロを提供したい、と申し出た。ちょうど11月のクラブ例会が開始した午後2時頃ライトバンで到着した平田氏とインターン女性と15分ほど話したあと、米を引き渡すことができた。

平田氏は会社員をしていたがYMCAのキャンプ体験が忘れられず、勉強し直して社会福祉の道を選び、「ほっとプラス」を立ち上げたと言う。会報誌によるとホームレスへの夜回り支援、炊き出し、居宅訪問、生活相談などを公的福祉制度にとらわれないで手がけている。近いうちに事務所を尋ねようと思う。

それにしてもあの時あの言葉を耳にしたのは偶然だったのか神の恵だったのか。❖

事務所：さいたま市見沼区風渡野 359-3

タウンコート七里 1階

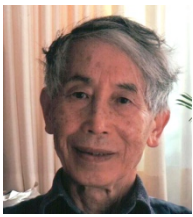
電話：048-687-0920



MEMBERS' ESSAYS

新書版で初めて「聖書」を読む

伊藤澄夫



私は恥ずかしながら、長い間聖書の内容については話を聞いたり、部分的に引用を目にするだけだった。そんな私が10年前に佐藤優氏の著述に出会った。

「受けるよりは与える方が幸いである」
(使徒言行録 20 章 35 節)

「この言葉を神学生時代も、外交官になって仕事で壁に突き当たったときも、そして鈴木宗男事件で特捜検察によって逮捕され、東京拘置所の独房に閉じ込められていたときも、何度も何度も繰り返しかみしめた。イエスの「受けるよりは与える方が幸いである」という言葉が私に勇気を与えてくれた。限られた人生の中で、自分が他者から「受けること」を第一義に考えるのではなく、他者に自分が何か「与えること」ができないかと考えることにより、この世界が異なって見えるようになることを実感した。今度もこの実感を忘れずに生きていきたいと思う」(「文藝春秋」2011年1月号「困難な時こそ読む聖書の言葉 10～キリスト教徒でなくても生きる力を与えてくれる」より抜粋)

さらに佐藤氏はプロテスタントとカトリックの専門家の合同チームが訳した日本聖書協会の新共同訳聖書の新約部分に自身の解説つきの『新訳聖書 1.2』を文春新書から刊行した。佐藤氏に言わせると新書版の聖書は彼が知る限り初の試みだ。これで忙しい人も通勤、通学途上の電車の中で気軽に聖書が読めるようになった。その上イエスの言葉として伝えられている部分はすべて太字だ。著者の言う通り、時間のない読者は、この太字の部分だけを読めば、聖書のポイントがわかる。というわけで、私も今手元に揃えている。

因みに筆者佐藤 優氏は、神学を学び、外務省退官後は現実社会についても憚ることなく著作、講演活動を続けていることに共感する。なおかつ、筆者が郷土の高校で青春を謳歌したことにも親しみをもつ。

私の聖書歴は始まったばかりだ。イエスの様々な発言に親近感を覚えることもあれば、深く考えさせられることもある。実に不思議な書物だと思う。❖

* 伊藤メンは今年度再入会してくれました。



“YMCA Vision 2030” とは？

今夏世界各地から多くのワイズメンが参集したデンマークでの第20回 YMCA 世界大会。そこで採択された“YMCA ビジョン 2030”とは一体何か？ワイズの皆さんと一緒に繙いてみたい。続けられそうなら今回はその1回目となる。

世界 YMCA 同盟のホームページを検索すると“Vision 2030” (以下 YV30) の「YMCA のための実用ガイド」が出て来る。その前文でハイエク会長とサンヴィ総主事が説明する。YV30 は世界 YMCA 史上初めての世界大の協働的な運動戦略である。その狙いは3つ：1) YMCA 自体が内的変革を進め、2) 地域社会が自力で変革するよう促し、3) 世界に向けた YMCA の発言力を高めるための道筋を提示すること。

YV30 は大きく二つの局面を想定する。まず YV30 を始動する。この局面では各地の YMCA がそれぞれの活動方針に YV30 を「埋め込む」。次の局面ではそれぞれの Y が活動する中で YV30 を「実践」していく。「そのために実用ガイドを活用してもらいたい」なおこのガイドは世界各地の YMCA の知見を積んだ成果である。「この新ビジョンが世界規模の運動体としての YMCA が協働して今まで以上に強いインパクトを世界に及ぼしうよう、一緒に前進しよう (意識)」

前文に続いて第1章に YV30 のレジュメが出てくる。本文は大変なのでこの省略版を読んでいくことにしたい。

まず運動総体としての「新ビジョン」：私たちの追求するビジョンは誰もが「自分自身」と「社会」「創造物すべて」と調和のうちに生きられる世界。続いて「新ミッション」：世界各地の若者と地域社会が自らの力で主体的に新しい世の中を構築する。そこは正義が実現し、持続可能で、公正で、排斥の心配もなく、一人ひとり身体的にも精神的にも霊的にも充実した生を享受する世界となる。

そしてこのミッションを達成するために4つのテーマを設定し、そこから12の戦略的ゴールに向かって働こう、と言う。(後は次号に)



世界 YMCA 同盟のホームページより写真転載

<12月の聖句>

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

(ヨハネによる福音 3:16)

YMCA PLACE

11月から埼玉大学教育学部の学生がサービスマンとして活動に参加しています。



11月3日(木・祝)に開催されたチャリティーランでもチームの一員として走り、子どもたちとともに達成感を味わいました。

見事3位を入賞した埼玉ワイズメンズチームの中高生のコメント

「3位になれてうれしかった」

「はじめてメダルをもらいました」

埼玉ワイズメンズクラブの皆様ご支援いただきありがとうございました。

また、昨年度同じくサービスマンからスタートし、実習がお終わった今もなお、継続的にクローバークラスの活動に参加してくれているリーダーもいます。最近では、月に1回のダンスの活動の指導者として活動してくれています。

以下藤木萌人さん(ももリーダーのコメント)

「子どもたちと一緒に活動していると、心が温められる感じがして、子どもたちひとり一人がいつも心の支えになってます！」

引き続き、ユースリーダーと一緒に活動を盛り上げていきたいと思います。❖

(浦和センター 石黒成華 記)

* 浦和YMCAは12月29日(木)から1月4日(水)まで閉館。5日から通常業務開始します。❖

ワイズメンズクラブ

第3回東西日本区交流会

日程：2023年2月4日(土)～5日(日)

会場：神戸全日空ホテル・神戸YMCA

2022年の主なNEWS

- ✓ 2月4日冬季五輪北京で開幕
- ✓ 2月24日ロシアがウクライナ侵攻
- ✓ 7月8日安倍元首相銃弾に倒れる
- ✓ 7月後半から旧統一教会による政治への介入・宗教2世の問題
- ✓ 9月8日エリザベス女王逝去
- ✓ 9月27日安倍元首相国葬
- ✓ 東京五輪汚職にメス
- ✓ コロナウイルス第8波全国へ
- ✓ 岸田政権支持率続降 30%前後
- ✓ 黒田日銀、金融政策を10年ぶりに大転換



仲間のお便り



◆ 堀和光二郎メン(俳号 愚道) 今月の俳句

「冬の旅朝日の風を紅く染め」

久しぶりに大川小学校に千羽鶴を届けました。70数名の子どもたちを想い、ふるさとをオカリナで吹きました。

「夕焼けが寂しさになる12月」

いつもならばきれいで明日への希望を感じる夕焼けが12月は寂しく感じてしまいます。

「憧れの女医の手のシワ師走かな」

憧れの院長先生も手のシワは隠せないな。❖

◆ 上松寛茂メン

年の瀬。今年も29日は千葉県館山市長期婦人入居施設「かにた婦人の村」に学生時代からのボランティア仲間(青学、東大、日本女子大他)と一緒にです。およそ100名のご婦人方が正月に食べるお餅を皆でつきます。日帰りの奉仕ですが、毎年仲間と会えるのが嬉しいです。

恩師関田寛雄牧師からクリスマスカードが届いたその数日後訃報に接することになった。学生時代からの恩師の思い出をいずれ文章にしようと思います。❖

12月統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
よる談会(12/12)	7	5	2
特別例会(12/17)	23	6	17

編集後記:素人編集子は未校正のまま年内にクラブメンバーに届けますが、上松修正版を1月に入ってから区HPに掲載します。第一面は前号同様外受けするよう写真を多用しました。国際会長や区理事の主題は省略し、会長主題はクラブテーマとして掲載。これからも活字減らしを進めます。さてワイズ運動も2世紀目に突入。どうぞ良いお年を!